

# 地域情報学の方法と 情報化の歴史的展望



地域情報化研究会

2005年2月25日

公文 俊平

# 方法1: 地域情報化とは何か?

---

- システム論的アプローチ: それはなんの一部か?
  - 地域情報化は、もちろん社会の情報化の一部
  - 地域の情報化 ⊂ 社会の情報化 ⊂ 社会の近代化 ⊂ 文明の進化 ⊂ 生命の進化 ⊂ 地球の進化 ⊂ 宇宙の進化
  
- とくに重要なのは、地域情報化を近代化およびその一局面である情報化の文脈で捉える視点

# 方法2:新科学論 (吉田民人)

科学の系統	理 系	文理両棲系	文 系
世 界	物質界	生物界	人間界
認識科学	物理学	生物学	人文社会科学
対 象	物質／エネルギー	シグナル記号情報	シンボル記号情報
進化する 秩序原理	法 則	ゲノム シグナル性プログラム	行為様式 シンボル性プログラム
	必然性と偶然性	必要性と可能性	
情報学	(非記号情報学)	生命情報学	人文・社会情報学
設計科学	自由領域科学→人工物システム科学へと総合		
人工物	物質的人工物	生物的人工物	精神・社会的人工物
拡大人工物	人間圏化された自然環境権、ハイブリッド人工物		
価値命題	惑星地球志向	生態系志向	人間中心志向
	存続志向		繁栄志向
	存続と繁栄の統合志向→人間と社会のための科学＝人工物システム科学		

# 新科学論からみた地域情報学

---

- 設計科学＝人工物システム科学のひとつ
  - 設計科学＝{計画、説明、評価}
    - ＝ {純粹設計科学を支える対象知識、純粹設計科学}
  - その個別的部門としての「自由領域科学」の一分野
    - 環境科学、安全学、女性学等にならぶ
  
- 基本的な仮設的価値命題：地域コミュニティの再生
  
- 「当事者の視点」と「観察者の視点」が共に必要

# 内生的選択(主体化)メカニズムの 三進化段階

---

- ① 動物神経系のオペラント学習  
→主体性の生物学的起源[むしろ内部状態]
- ② 人間の仮想的情報処理に基づく事前選択(言語を用いる意思決定)→人間的主体の原型
- ③ 人間的選択への価値評価の追加→高次主体性
  - ① 特殊近代的高次主体性:  
自己決定+相対所与性の克服
  - ② 新高次主体性の要請:  
共同決定+絶対所与性の受容

# 方法3: 秩序進化論

---

- 熱力学: 物質／エネルギーのマクロ状態理論
  - 物質／エネルギー恒存法則(宇宙／閉システムの存続)
  - エントロピー増大法則(宇宙の熱死)
  
- 複雑系科学: 開／成長ネットワークのマクロ状態理論
  - 中心概念は、自己組織的臨界状態での相互作用
  - 複雑な秩序 (生命・社会) 形成(創発)の普遍理論
    - 例: 金子の複雑系生命論
    - ベキ分布／フラクタルの恒常性
  - 複雑な秩序崩壊の普遍理論
    - 例: 地震、山火事、戦争、景気変動、科学革命、流行のベキ法則

# 近代化の一般理論：創発、開発、共発

---

- **内：近代化の文化ミーム（精神革命）：**  
自立・自律精神（能動主義＝手段、進歩、自由主義）
  - まず既存の権威（帝国・宗教）からの分権自立、次に集権化へ
  - その創発場所：宗教文明の周辺（西欧や東国）
  - その担い手：封建領主（武士）、起業家（プロテスタント、下級武士）
  
- **外：近代化を促進する文明と文明ミーム：**  
媒介文明（第ゼロ地域？）、モデル文明、共働文明
  - 陸のモンゴル、トルコ等（大乾燥地帯周辺）
  - 海のバイキング、南アジア多島海（大陸をとりまく海洋）
  - 先発国（西欧）、共働国（米、日）
  - 日本近代化の媒介者としての隣国＝奥州（馬と金）とモンゴル

# 情報化の一般理論

---

- 内：情報化のミームは何か？どこに生まれるか？
  - 知識重視、説得、ネットワーク化等（イ・ト・コ）
  - 情報化の起こる場所：大都市周辺の地域（サイバースペース？）
    - 地域（知己と信頼の関係）を基盤としないオープン・ネットワークは、セキュリティ問題で挫折→自由の死？
  - 地域情報化の担い手は？  
（コネクター、プロデューサー）（バカもの、若者？）
- 外：地域情報化を媒介する外的存在はあるか？
  - （よそ者、日経アワード？）
  - 他文明（先進国としての米欧、北米インディアン、インド？）

# 日本の近代化

---

- イエ社会の進化＋西欧化
  
- 10－11世紀の東国開発領主のイエがその起源
  - 農耕・軍事機能が**一体化**した**永続的**集団
  - その文化ミームの一部はウジ社会からも(平山説)
  
- **倣い拡大**によって上位のシステムを形成  
(すべて「イエ」、「オイエ」と呼ばれた)

# イエの四つの文化ミーム(村上)

---

- 直系の継承線：凝集力と永続性の象徴
  - 開発の祖と一所懸命の地(氏神の祭祀権)、本家と分家
  
- 集団内ヒエラーキー：業績主義
  
- 多様な血縁外養子の慣行：擬血縁制
  
- 名目的統治者と実質的指導者の併存(執権・老中等)

# イエ社会の進化過程(その1)

---

- 原型は平安末期の東国開発者集団
  - 初期原イエとその同族団(均分相続、本家と分家)
  
- [挑戦1] 宮廷貴族政権からの圧力と誘惑
  - 鎌倉の原イエ連合国家(征夷大將軍の関東御分国)の形成
    - 源家の棟梁とその御家人
  
- [挑戦2] 西日本の商人とムラ(異なる組織原理)  
+モンゴルの来襲(異文明、撃退しても恩賞なし)
  - 室町の後期原イエ(嫡子相続と一円所領)とその連合国家
  - 戦国の初期大イエとその家臣団の形成(戦国大名)

# イエ社会の進化過程(その2)

---

- **[挑戦3]** 西欧との第一次邂逅  
(三つの文明ミーム:三つのG)
  - 徳川の後期大イエ(藩・家臣)とその連合国家(徳川国家)
    - 三つのGの放棄(重商主義的絶対主義の流産)
    - 家臣の給人／小イエ化、
    - 兵農分離:自治的下位主体としてのムラとマチ
  
- **[挑戦4]** 西欧との第二次邂逅  
(三つの文明ミーム:三つのI)
  - 明治の単一イエ国家(国民総イエ化)が西欧化を推進
    - 準大イエ(企業)と内イエ(政府機構とその部局)

# 今日の挑戦の背景

---

## □ 開発主義の成功と蹉跌

- 「富国強兵」の二正面作戦の成功
- 最初の共発的近代化の試み：台湾・朝鮮と満州国
- 包囲と暴発→敗戦と占領→昭和憲法と戦後民主主義

## □ イエ的自前(自立／自律)主義ミームの衰退

- 経済(ムラ)に特化した「半国家」の一国繁栄主義
- ムラ(政治も生殖も無関心、空想的平和主義)の成人病

# 三つのグローバルな新しい挑戦

---

- 近代内部(情報化)から
  - その創発と開発・共発の形
  - 自前主義の復活／再発現はいかにして可能か？
  
- 途上国から
  - 開発成功国の挑戦／蹉跌
  - 途上国の支援／共発要求
  
- 地球環境から